

平成 29 年度市民対話集会会議録

日 時：平成 29 年 10 月 30 日（月） 19 時 00 分

場 所：福社会館 6 階ホール

団体名：岡崎市地球温暖化防止隊

岡崎市環境まちづくり市民会議

18 名

内 容：①開会

②市政ビデオの放映

③市長挨拶・説明

④団体代表要望・意見等

⑤その他要望等

市長一 皆さま、こんばんは。台風一過の月末で大変お忙しい中にも関わらず、本日はこうして市民対話集会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。皆さまには、日頃から市政に対する多大なるご理解とご協力を賜っておりますことに、心より感謝を申し上げます。また、環境啓発活動の実施や各種イベントへの参加などを通じまして、市民の皆さまに地球温暖化をはじめとした環境問題への意識を根付かせるような努力をされておりますことに、敬意を表する次第であります。本市といたしましても、環境基本計画に基づきまして、皆さんとともに岡崎市の望ましい環境づくりに取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きご尽力をよろしくお願い申し上げます。

さて、この市民対話集会になりますけれども、私が市長に就任しましてから、この5年間で46回目となります。また、招かれればどこでも行きますということをおっしゃるので、各種講演会でありますとか政策説明会など、これまでに300回以上、私の目指す市政についてお話をしてきたところであります。議会における審議以外に、こうした形で皆さまのご理解を深めながら行政を行っているケースというのは、全国でもまれなことと自負しております。これは、私が理想といたします顔の見える民主主義の実践でありまして、それができるこの岡崎市というものを大変誇りに思っております。近年の大都市でよく見られず、時の風に左右される大衆扇動型の政治というのは、結局のところ無駄ばかりが多くて、実りの少ないものであるというふうに思っております。今回は貴重なお時間をいただきまして、市政の現状というものをご報告申し上げますとともに、皆さまがたからの率直なご意見を伺える機会になると楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年の10月に皆さまのご負託を得ましてスタートいたしました2期目の市政になりますけれども、これでちょうど1年がたちました。その間、ただ今ご覧いただきましたとおり各施策も順調に進んでおりまして、先日、JR 岡崎駅前の整備の核となります新たな商業施設もオープンしたところであります。これは、300人規模のコンベンションホールとオール・スイート仕様の宿泊施設をはじめとしまして、レストラン、カフェを併設した結婚式場でありまして、「ララチャンス OKAZAKI」という名前が付いております。これによりまして、本市の南の玄関口に新たなにぎわいが生まれるものと期待をしているところであります。そして大変ありがたいことに、またもやある資産家の方からご寄付のお申し出をいただきまして、東公園に恐竜の仲間が増えることになりました。今皆さまがご覧いただいている右上のトリケラトプスですけど、これは今子どもが二ついまして、その親でございます。そして、四つのベンチが並んでおりますけれども、こういった形状で子どもたちが恐竜と一緒に写真が撮れる恐竜ベンチ、そして滑り台やトンネルとして遊んでいただけるスピノサウルス、こうしたものができるわけでありまして、最近では子どもさんの目が大変肥えておりまして、変なものを作ると「違う」ということを言われてしまいますので、全て本物指向で作らせていただきます。これは年末から来年にかけて順次設置してまいりますので、お子さんやお孫さんがおみえになる方は、ぜひ一度東公園に遊びに行ってくださいと思います。

一方、近年豪雨災害が頻発いたしまして、今年も九州豪雨をはじめとしまして各地で被害

が出ております。本市もレッドサラマンダーの派遣など被災地支援を行っているところですが、こういった集中豪雨はいつどこで発生するか分からないものであります。先週も、超大型で非常に強い台風 21 号が日本列島を直撃いたしまして、大雨の被害をもたらしたところであります。今年も、9月に市内各地域で防災訓練を実施いたしまして、多くの市民の皆さまがたにご参加をいただき、防災意識を高めていただいているところであります。当日は私も、各地域の皆さまがたが積極的に取り組んでいただいている姿を拝見いたしまして、本市としましても引き続き災害対策には万全を期してまいりたいと思っております。

市制 100 周年の節目を経まして、これから新たなる 100 年に向けてまちの魅力向上を図り、充実した市民サービスを提供していくためには、将来にわたって安定した財源というものが必要となります。これからの財政におきましては、現在の本市の経済の柱となっております自動車産業を中心としたものづくりに加えまして、もう一つ柱として、本市の特徴であります美しい自然と歴史的な文化資産を活かした観光産業の育成ということが重要であると考えております。そのための第一歩となりますのが、現在進んでおります乙川リバーフロント地区の整備であります。今回のリバーフロント計画というのは、行政によるハードの整備だけを目的としたものではなく、公共の整備した空間というものを民間の皆さまがたに使っていただきまして、そこで儲けを出していただくとともに、その地域の価値を高めることでさらににぎわいを生み出し、その結果、行政には税としての収入が入ってくる、こういった稼ぐシステムを目指したものであります。こうした趣旨のもと、昨年に続きまして、「おとがワ！ンダーランド」を今年も開催しているところであります。これは、新たににぎわいを生み出すといった取り組みであります。来年 1 月まで、朝市や水上アクティビティ、殿橋テラスなど、さまざまなメニューが展開されまして、毎週第 4 土曜日にはナイトマーケットも行われますし、星空観望会といった大人好みの企画も考えられております。そして 11 月 25 日には、今年で 3 回目を迎えます中部地方最大級の光の祭典、「岡崎泰平の祈り」が、岡崎青年会議所や民間企業のご協力をいただき開催されます。川面をゆったりと流れる「いのり星」の幻想的な美しさが、口コミで広がりつつあるわけです。余談でありますけれども、第 1 回目の折に、娘さんがこの場所でプロポーズをされて翌春結婚されたと、こんなことでお父さんからお礼を言われておりますけれども、そんなものも売り物として PR していきたいと考えております。

次に、ハード整備の状況であります。殿橋下流の河川敷の整備がほぼ終わりました、きれいに明るくなった河川敷におきましては、毎日多くの方が散歩やジョギングなどを楽しんでいただいております。若いカップルだけでなく、高齢者のご夫婦にも親しまれておりますことを大変喜んでおります。夜の闇に白く輝いたように見えることもご好評をいただいております。これからも多くの方に夜間照明の美しい遊歩道の散歩を楽しんでいただければというふうに考えております。また、殿橋と明代橋の間では、平成 31 年度の完成を目指しまして乙川人道橋の工事が進み、現在橋脚 2 基と橋台 1 基が完成しまして、目で見て整備の状況が分かっていただけのようになっております。この橋の本体は鉄筋コンクリー

トで造るわけでありますけれども、床や手すりの部分などの表面には額田産のヒノキを使いまして、木装風の橋として仕上げてまいります。当初この事業にあまりいいことを言っていないでいなかったかたからは、最近になって実際にできた石積み風の橋脚などを見て、「やっとおまえさんがやろうとしていることが分かってきた」と、こんな好意的な声もいただいております、やはり言葉よっての説明には限界がありますので、今後は一つひとつ形にしていくことで、市民の皆さまに視覚的により正しく理解していただけるように努めてまいりたいと思っております。

また、人道橋と籠田公園を結ぶ中央緑道につきましては、これは仮称でセントラルアベニューと呼んでおりますけれども、平成31年度中の完成を目指しまして、現在実施設計を進めているところであります。今回の整備におきましては、さまざまな世代の方が一緒にいられる公園環境を作り出しますとともに、安心して楽しく歩ける場所を提供していきたいというふうに考えております。そして、先ほども申し上げましたが、決してこうしたハードの整備をすることが最終目標ではなくて、これにより出来上がった空間を使って、いかにまちなぎわいを取り戻していくかということが一番のポイントであります。よくまちづくりにおいて、「これを作れば絶対にこの地域は良くなる」ということを言われる方がありますが、一つ何かを作ったからといって、それだけで劇的に物事が変わっていくことはあまりないのではないかと私は思っております。継続してこうした事業を続けていくこと、そしてソフト的なものを考えていくことが一番のポイントであるというふうに思っております。

今後は、名鉄東岡崎駅を出発点といたしまして、人道橋、籠田公園、りぶら、岡崎城、乙川の河川敷までを巡る動線に沿って楽しく歩いていただきまして、人をまちに呼び込むための工夫や、人々の好奇心をそそるソフト事業の取り組みも進めてまいりたいと考えております。そして、その鍵となりますのはやはり、おいしい食べ物、面白いお土産、独自のサービスであると考えております。これにつきましては、民間の皆さまがたの独創的なアイデアを期待しているところであります。この動線でありまして、岡崎城の総構え、すなわち総曲輪と重なっております、その形状がアルファベットの「Q」の字に見えますことから「QRUWA（くるわ）」と名付けております。先週末の10月28日には、この地域で「めぐる、QRUWA」というイベントを行いましたけれども、雨にも関わらず多くの方に出迎えていただきまして、大変にぎわいました。また、健康づくりを支援するための新たな取り組みといたしまして、「歩いて健康」、「食べて健康」をまちの中で実感できますように、健康づくりの観点からもまちづくりを進めてまいります。エコの観点から申しますと、ここにお集まりの皆さまがたにもウォーキングイベントを実施していただいておりますけれども、「QRUWA」のまち歩きも、そのコースとして活用できるのではないかと考えております。そして、東岡崎駅の周辺整備につきましては、先ほども見ていただきましたけれども、東岡崎駅からリバーフロント地区への安全な歩行者動線を確保するためのペDESTリアンデッキを整備してまいります。中央部分に新たな広場ができますため、ここをイ

ベント会場や朝市、移動ショップのような要素を取り入れた利活用を考えておりますので、何か良いアイデアがありましたら、またご提案していただきたいと思っております。リバーフロント計画そのものも、そのようにして多くの皆さまがたの知恵を得て進んできたものであります。

また、このペデストリアンデッキは、これまでさまざまな機会で申し上げてまいりましたように、松平元康から徳川家康と改名した 25 歳当時の若き日の家康公のブロンズ製の騎馬像を、木々の緑と乙川を背景に配置することになっております。この家康公像というのは、これも何度も申し上げてまいりましたけれども、いかげんなイメージで作っているのではなくて、京都の知恩院というところに木彫の若き日の家康公の像があるんですけども、その顔が一番似ているということが昔から言われておるんですが、それをモデルに顔を作っております。それから体に着けている鎧兜も、晩年の鎧兜ではなくて、若き日に家康公が身に着けていて、その後に酒井家に下さりものとして渡されたものが今も伝わっております、それをモデルに作っておるわけでありまして、今回家康公像を製作していただきます、日本のブロンズ像制作の第一人者といわれます神戸峰男先生にも、日本一の騎馬像を造るといった大変強い意気込みで携わっていただいております、先般の呼和浩特の訪問につきましても、中国に行って汗血馬が草原を走っている様子を自分も見たいということで、わざわざ走っている馬の絵を描くたびに、私たちにご報告をいただいております。これからは、若く志のある家康公のイメージというものも売り出してまいりたいと考えております。そして、この像の完成の暁には、それは単なる観光のスポットとしてだけではなくて、桶狭間の敗戦という人生の一大ピンチを独立のチャンスとし、天下を統一して泰平の世を実現した家康公の一生から、困難に立ち向かい人生を切り開いていくという精神を岡崎の子どもたちにぜひ学んでほしいと思っております。子どもたちが入学試験や大きなスポーツ大会などの前に、この前で簡単な祈りをささげてから出掛けるような場になればと、こんなふうに思っております。

なお、先ほど映像でご覧いただきました北東街区の新たな施設を含めまして、これらの施設は平成 31 年度当初の供用開始を予定しております。同時に、この区域におきましては、路上喫煙やポイ捨てなどを規制する新たな条例も検討しております。これから岡崎の玄関口が、快適で魅力的な駅前空間として大きく変わってまいりますので、ぜひご期待いただきたいと思っております。

そして、乙川リバーフロント地区の整備に続く取り組みといたしまして、本市特有の歴史文化資産を活かした歴史まちづくりということを進めてまいります。岡崎市内には 13 カ所にも及びます国指定の建造物があるわけですが、意外にも市民の方はご存じじゃないわけでありまして、このことは大変もったいないと思っております。改めて市民の皆さまにもそのことを知っていただきまして、勉強していただきまして、逆に外の方に紹介していただけるようにしたいというふうに思っております。併せて、これらの点を線としてつなげまして、季節ごとのコースをこちらで考えて、こちらからそれを積極的に売り込んでまいり

たいというふうに思っております。その起点となりますのが岡崎公園でありまして、これからは家康公生誕の城にふさわしい史跡として再整備をしていきたいというふうに思っております。殊に、公園内などに戦国期から江戸期にかけて整備された堀や石垣があるわけですが、これらは極めて歴史的価値の高いものでありまして、岡崎城の最大の売り物であると思っております。

昨年の菅生川端石垣に続きまして、この9月に開催いたしました月見櫓の発掘現場の現地説明会におきましては、市の内外から多くの方がお越しになりました。近年のお城ブームとともに、改めて歴史ある岡崎城跡の持つ魅力というものを私たちも再確認したところがあります。そして、名古屋城と同様に岡崎城の天守も建築から間もなく60年を迎えますことから、近い将来この城をどのように建て替えるのか、あるいは延命措置をしていくのか、これが大変大きな問題となってまいります。私としては、そのための今からできる限り岡崎城に関する正しい資料をそろえておきたいと思っております。どうするかは、また市民や議会に決めていただきたいと思っております。現在市民の皆さまがたには、自宅の蔵や倉庫に岡崎城の設計図や見取り図、古い写真が残っていないか、このことをもう一度ご確認いただきたいということで、市の広報などを通じまして何度もお願いをしているところがあります。四国の高松城におきましても同じ試みで、古い写真がなんとイギリスのケンブリッジ大学で発見されまして、お城の再建に弾みがついたということでもあります。旧家の多い岡崎市におきまして、同じように発見される可能性は高いというふうに思っております。

そして、これらの事業以外にも岡崎全体を見据えたまちづくりを着実に進めております。まず、岡崎市の北部にあります旧県営グラウンド、仮称龍北総合運動場につきましては、愛知県からの移管がようやく決まりまして、平成32年の供用開始に向けましてただ今整備を進めているところであります。各施設につきましては、陸上競技場を第3種の公認に向けまして全天候型の改修を行いますとともに、サッカーやラグビーのグラウンドとしても活用できるように整備してまいります。また、老朽化の激しい50メートルプールにつきましては、これは県の管理下におきまして撤去しまして、その跡に8面のテニスコートが造られます。なお、新しいプールにつきましては多くのご要望をいただいております。ただ今場所も含めまして調査中でありまして、今後さらに皆さまにご満足いただける施設になりますよう整備してまいりますので、ぜひこちらにつきましてもご期待いただきたいと思います。

南部地域におきましては、JR岡崎駅前に噴水付きの公園整備を進めていく他、先ほどご紹介いたしました商業施設と岡崎駅をつなぐペデストリアンデッキの整備、周辺道路の電線類の地中埋設化などを実施してまいります。そして、市民待望の藤田学園の大学病院につきましては、24時間365日の救急医療に対応し、22の診療科と400床の病床を持つ総合病院が、平成32年4月の開院を目指して整備が進められることが正式に決定いたしまして、来年の春から建設工事が始まります。この400床の病院というのは、ちょうど岡崎の市民病院の3分の2ぐらいの大きさの病院ということになります。さらに、大学病院の隣接地におきましては、藤田学園監修によります健康器具を備え、ヘリコプターも発着できる駅南中

央公園の整備や、各種商業施設の進出なども決まりまして、これから南部は大きく変わってまいります。もちろん、そうした施設を活かしていくためには接続道路や環境の整備が必要でありまして、今後とも国や県としっかりと協力して整備してまいりたいと考えております。

また、額田地域におきましては、平成30年2月の供用開始を目指しまして、額田支所をはじめとして周辺にあります額田図書館などの機能を集約した、額田センターの整備を進めてまいります。内装の柱や梁には地元産のヒノキを多く使いまして、木材の活用のPRにも一役買っております。現在愛称募集中でありまして、優秀な作品には図書カードを差し上げますので、額田の拠点にふさわしい愛称を思い付かれまして、ぜひ応募いただきたいと思っております。11月10日まで受け付けておりますので、よろしくお願いいたします。

この他にも、市内にあります240余りの公園におきまして、地元産の木材を活用し、高齢者のくつろぎと市民の健康増進を目的とした憩いの空間を整備してまいりたいと考えております。そして、本宿駅の周辺におきましては、駅前再開発事業に加えまして、民間事業者によりますアウトレットモールの進出が計画されております。これは、新東名岡崎東インターチェンジや国道473号バイパスの整備の他、国道1号、さらには名鉄本線からも近いなど、交通アクセスが大変いいということに加え、土岐や長島のアウトレットからも50キロ離れている、こういった諸条件を検討した上で選ばれたものでありまして、先般事業者を確認しましたところ、現在鋭意準備を進めているということでありました。毎年年末に経過報告がありますので、きっと12月ぐらいにはまた事業者から私のほうに報告があると思っておりますので、次回の対話集会ではもう少し具体的なことがお話しできるかと思っております。いずれにいたしましても、今ご覧いただいておりますとおり、建築パースを作って岡崎市のほうにぜひこの事業を進めたいということが来ておりますので、そんなにいいかげんな話ではないと思っております。この事業がもし実現すれば、額田地域を含む岡崎の東部地域の活性化や雇用にも大きなインパクトがありますことから、本市としては積極的に対応していきたいと考えております。

また、矢作地域におきましては、矢作川の右岸南北道路の整備や公園整備などを行う他、JR西岡崎駅におきましてエレベーターを設けるなどのバリアフリー化を進めてまいります。そして、東名高速道路の阿知和地区におきましては、先般国の指定を受けまして、スマートインターチェンジの開設に向けた準備会を設立したところであります。これから具体的なコースなどを詰めてまいりたいと考えております。一方、新東名高速道路のサービスエリア、NEOPASA岡崎への開設につきましても、引き続き努力をしてまいりたいと思っております。

このように、私の2期目の市政も順調に進んでおりまして、皆さまがたにその成果をよりいっそう感じていただくことができるようになってまいりました。こうした政策の究極の目的というものは、いつも申しておりますとおり、岡崎の市民、殊に子どもたちが自分たちのふるさとに対してこれまで以上に大きな愛情と誇りが持てる、そんな夢のある新しい岡崎を築き上げることであります。ふるさとに対する愛情や誇りというものは、与えたり教え

たりすることのできるものではなく、自分の心に自然に湧き上がってくる情念の高まりのようなものであると私は思います。私は、そうした心のある岡崎人、日本人が育つまちづくりを目指しまして、これからも各政策をしっかりと遂行してまいります。そして、次の100年を見据えまして、福祉や医療、防災、教育といった基本施策の充実はもちろんのこと、さらなる魅力のあるまちづくりにまい進してまいる覚悟であります。今後とも引き続き、皆さまがたのお力添えをお願い申し上げまして、私の話を終了いたします。ご静聴ありがとうございました。

司会— それでは、事前に要望提案を伺っておりますので、発表していただきたいと思っております。まず、岡崎市地球温暖化防止隊の代表様、よろしくお願いいたします。

地球温暖化防止隊代表— まず初めに市長さんに、地球温暖化についてどのように思っておみえになれるか、また、市長さんの平成27年12月の日本版の首長誓約に対する思いについてお伺いしたいと思います。以上2点、よろしくお願いいたします。

司会— それでは回答を市長、よろしくお願いいたします。

市長— 地球温暖化の問題につきましては、今や世界中でこの問題に取り組んでおるわけでございます。ニュースで見ない日はほとんどないように思っておりますけれども、その中で、日本は2030年に向けまして温室効果ガスの排出量を2013年度比で26パーセント削減する目標を世界に向けて発信しておるところでありまして、ただ今国を挙げて、この目標を実現するために地球温暖化対策に取り組んでおるところであります。岡崎市も現在、地球温暖化対策の実行計画の見直しを行っているところであります。削減目標を達成するためには、家庭などから4割という大幅な削減が必要となりますので、地球温暖化対策は市民の皆さまがたのご協力がなければ成り立たないと考えております。地球温暖化問題について、改めて事の深刻さを再認識していただきまして、一人ひとりが意識革命と行動の改革をもって、地球に優しい生活を送っていただきたいと思っております。

しかし、地球温暖化対策、エネルギー対策というのは、一つの自治体だけで大きな成果を挙げられるというものではありません。殊に、これは釈迦に説法になってしまいますけれども、アメリカと中国が本気を出してこれに取り組んでいただければ、いくらよその国が頑張っても本当にこの地球温暖化問題を解決することはできないのではないかとこのように思っております。ただ、各自治体の特性を活かしてそれぞれができることをやっていくことで、私たちはそれに対して1歩でも前進できるのではないかと、このように思っております。こうした考えのもと、先般近隣の5市で全国に先駆けて日本版首長誓約を行いまして、共同してアクションプランを策定したところであります。その中で今年は、公共施設等の涼しい場所を共有して夏場の電力使用量を削減する取り組みであります「西三河クール

シェア」を実施いたしました。5市が連携いたします強みを活かして、イベントやコンテストなどでは多くの事業者の協力や、多くの市民の皆さまがたにご参加いただけるようにしたいと思います。まずは、こうした事業を盛り上げていくことによりましてこの取り組みを全国に発信して、日本各地に首長誓約の取り組みを広げていくことが、首長誓約第1号としての責務でありまして、目標の一つかと考えているところであります。

ちなみに、ただ今私は家を建て替え中でございますけれども、今回太陽光発電を20ワットでやっております、これで全電力、私の家は太陽光発電で賄える、こういうふうに思っております。以上です。

司会— よろしかったでしょうか。

地球温暖化防止隊代表— まだちょっとお時間があるようですから、もう一問お願いしたいと思います。私どもは岡崎市地球温暖化防止隊として活動しているわけですが、これについてどのようにお思いか、また何を期待していただけるかというようなことがございましたら、ちょっとお話しいただければというふうに思います。よろしく願います。

環境部長— 防止隊の皆さんにおかれましては、先の市長のごあいさつの中でもありましたとおり、いろんなイベントでご協力いただいております。まずもって御礼を申し上げます、ありがとうございます。そもそも岡崎市の地球温暖化防止隊は、地球温暖化対策の推進に関する法律、この法律に基づく地球温暖化対策地域協議会として環境省に登録されておまして、この11年間、市民を対象に地域に根付いた地球温暖化防止の啓発活動を積極的に行ってきたというふうに認識をしております。ひとえに地球温暖化防止といいますが、今市長も申し上げたように、アメリカや中国などの大きな国がなかなか足並みをそろえていないという状況の中ではありますが、やはり日本が温室効果ガスの削減目標を達成するためには、近年排出量が増加傾向である民生部門、一般の人たち、つまりわれわれの生活での取り組みが不可欠ということです。まさに、地球温暖化防止隊である皆さまの取り組みで岡崎市民の皆さまの生活が見直されまして、岡崎市から排出される温室効果ガスが少しでも削減できればいいのかなというふうにも思っております。温室効果ガスを削減するには、ビルだとか製造業などの大規模なもの、お金がかかるハードの面も必要でありますけれども、市民一人ひとりの温暖化に対する意識を変えるソフトの面、このような活動も非常に大切だと思っております。それは地球温暖化防止隊の皆さまが、市民の先頭を切って引っ張っていただいているように思っております。今後さらに厳しくなっていく地球温暖化の対策でございますけれども、これからもぜひ変わらぬご尽力をお願いして、期待をしております。以上です。

司会― よろしかったでしょうか。

地球温暖化防止隊代表― 最後に、賛助会員として岡崎市さんにも出資 10 口をいただいております。来年は、以前の 30 口とは申しませんが、せめて倍ぐらいの 20 口ぐらいはお願いできたらというふうに思います。私ども岡崎市地球温暖化防止隊の意見、ご要望というように、本日はいろいろとありがとうございました。今後とも、またぜひよろしくお願ひ申し上げます。

司会― ありがとうございました。それでは次の要望提案を岡崎市環境まちづくり市民会議の代表様、よろしくお願ひいたします。

環境まちづくり市民会議代表― 岡崎市の作った、先ほど市長さんも言われました岡崎市環境基本計画の中の、岡崎市を自然エネルギーをいっぱい利用するまちにしようというプロジェクトでは、われわれ市民会議と共同で自然エネルギー見学会を実施してきました。いろいろな場所を見学して、岡崎市にもできることがたくさんあることが分かってきました。特に、河川や東部の森林を利用した再生可能エネルギーの利用を考えることがポイントと思われまふ。河川では、市内にたくさんある堰を利用した水力発電。また、森林利用としては、間伐材を使ったバイオマス発電。バイオマス発電は、岡崎市の中央クリーンセンターで既に行われています。しかし、さらに発展させることが必要ですし、可能です。額田では、「額田木の駅プロジェクト」を実施し、日本一の実績を誇っています。間伐材をバイオマス発電の燃料として出すことは大変なことですが、額田なら、岡崎なら何とか、熱利用も含めた小さな発電所の建設も可能ではないかと思われまふ。その他、現在計画中の八帖クリーンセンター建て替えに合わせて、燃料に間伐材などの利用を考えることも良いと思われまふ。いずれも市として行うことも必要ですが、中部電力、関西電力など電力会社、その他民間と協働で行うことが必要かなと思われまふが、その辺、市としてどのように考えておられるか、よろしくお願ひいたします。

司会― ありがとうございました。それでは回答を市長、よろしくお願ひいたします。

市長― ただ今ご意見いただきましたとおり、本市のバイオマス発電としては、現在中央クリーンセンターにおきまして年間 5,000 万キロワットアワーを発電しておりまして、このうち約 3,000 万キロワットアワーを売電しているところであります。これは、一般家庭 9,000 世帯の年間電力消費量に相当するものであります。こうした中、現在岡崎市におきましては、中央クリーンセンターで発電される電力をこれまでのような売電ではなく公共施設に供給する、地域電力小売り事業の立ち上げを検討しているところであります。それを地域雇用の創出や地域経済の活性化につなげまして、将来的にはその利益を地域に還元していきたい

というふうに考えております。また、ご質問にありました「額田木の駅プロジェクト」におきましては、昨年度、約 1,300 トンの間伐材が出荷されまして、これをチップに加工しているところでもあります。間伐材の出荷者はその対価として地域通貨を受け取り、地元の店舗で利用するといった、まさに森林整備と地域経済の活性化の好循環が既に進んでおると考えております。

しかしながら、まだまだ未利用の森林資源があることは周知の事実であります。本市といたしましても、今後も木の利用促進を踏まえまして、森林資源の利活用につきまして調査研究を進めてまいりたいと思っております。以上です。

環境まちづくり市民会議代表― 今の中央クリーンセンターで 5,000 万キロワットアワーの発電をしているということでしたが、もうちょっと頑張ればいけるのかなという気もしておりますので、よろしく申し上げます。

それともう一つ、岡崎市の公共交通についてということで、よろしく申し上げます。豊田市を中心とした西三河地方は車社会として発展し、岡崎市もそれに便乗して反映してきました。岡崎市は、自家用車があれば住みやすいまちですが、自家用車がないと住みにくいまちとなっています。名鉄バスの路線は、昔の名残でたくさんあり、岡崎市の補助金で保存されていますが、多くの路線でほとんど人が乗っていないバスが走っています。ゆくゆくはまちの構造そのものを変えて、車がなくてもバスさえあれば住みやすいまちになってもらいたいところです。移動の手段としての公共交通は、CO2 削減対策として非常に有効なものですので、今後路線バスの存続は不可欠になります。しかしながら、先日 10 月 1 日の名鉄バスダイヤ改正では、東岡崎駅北口 1 番乗り場から出るバスは 23 本減りました。3 番乗り場から出るバスは 5 本減りました。4 番乗り場から出るバスは、東名岩津行きが 2 本増えましたが、その他の路線では 14 本減りました。南口の 12 番乗り場から出るバスは 2 本減りました。このままでは、補助金をさらに増やして維持しないと、路線そのものがなくなるのは目に見えています。

そこで提案ですが、路線バスを利用した市内の「路線バスの旅」なるルートを作り、とりあえず現存するバス路線を利用して効率よく観光できるルートを作り、「岡崎市内 1 日フリーバスチケット」なるものを作ればよいのではと考えました。いろいろ調べたところ、実はこのようなバスチケットは既に存在することを知りました。「1day フリー岡崎」という名前のチケットでして、大人 800 円、子ども 400 円です。しかし、利用できる路線が限られており、現状ではあまり使えませんし、実績もあまりありません。名鉄に問い合わせたところ、月に 20 枚ほどしか売れてないということです。観光推進課が作った「公共交通岡崎めぐり旅」という岡崎観光のアクセスマップは、観光推進課の窓口や観光案内所などで配布されていますが、そこに掲載されているモデルケースとして、東岡崎から大樹寺、大樹寺から滝山寺、滝山寺から伊賀八幡、伊賀八幡から八丁味噌蔵、八丁味噌蔵から岡崎公園を経て、東岡崎に戻るコースが紹介されています。しかし現在では、大樹寺から滝山寺へのバス路線は 1

日に1本、18時台しかありません。要するに、このルートはもう観光としては使えなくなっています。早急に別のルートをたくさん作る必要があります。幸いなことにバス路線はたくさん保存されていますし、観光資源も岡崎市各地に豊富にあります。名鉄に働きかけて、もっと多くの路線を利用できるようにすることも必要です。観光客だけでなく、市民も家族連れで歴史の勉強ができたり、買い物に使えたりするとよいでしょう。

このチケットは東岡崎でしか販売されていないのも、市民にとっては使いづらい一因です。例えば、岩津に住む人がイオンまでバスで行くと、510円かかります。往復1,020円なので、800円のチケットなら十分元は取れます。途中で康生などに寄ればなおさらです。しかし、東岡崎でしかチケットが販売されていないので、あらかじめ購入しておかないと利用できません。そこで、環境政策課および観光推進課、交通政策課など、あと名鉄とも、それから地球温暖化防止隊や、われわれ環境まちづくり市民会議と一緒に取り組んでいけばいいのではと思っています。その辺、市のほうはどう対応していただけるか、よろしく願います。

司会— ありがとうございます。それでは環境部長、お願いします。

環境部長— 大切なご提案ありがとうございました。ただ、今現在発売されております「1dayフリー岡崎」、これにつきましては、今おっしゃったように名鉄バスが運用しております。市が費用を負担しているものではありませんので、どの線をどういうふうに延ばすというのは、市のほうからは回答は控えさせていただきたいと思っております。ただ、おっしゃるとおり、環境部のわれわれといたしましても、移動手段としての公共交通機関の利用というのは、当たり前のことですが、CO2の削減には非常に大切なことだと思っております。反対に今おっしゃったとおり、名鉄にお聞きになったときにその切符が20枚しか売れてないというような状況では、名鉄の新しい路線の開発というのはまだまだ先になってしまうのかなど。やはりバスというものは、乗ってくれて初めて採算が取れるというものだと思っておりますので、ルートの選定とともに、皆さま環境まちづくり市民会議ですとかいろいろなお知恵の中で、利用の増加に対する提案だとか意見もあつたら、非常にうれしいなというふうに思っております。そういう意見をもって、庁内でもしも調整が必要であれば、今言っていたように観光推進課だとか交通政策課との調整は喜んでさせていただきますが、これからも公共交通機関の利用促進については同じ立ち位置だと思っております。これからも一緒に勉強することを願いたいと思います。よろしく願います。

司会— よろしかったでしょうか。ありがとうございます。事前にいただいている要望提案は以上でございます。それでは、その他にご意見のある方がいらっしゃいましたら挙手で願いたいと思いますが、いかがでしょうか。

団体員Aー 先ほど市長が、今後の夢のある岡崎ということでいろんな事業展開を説明されたわけですが、たまたま今日は環境をからめての集会になったものですから、ぜひああいう事業も含めて、環境も含めた形の、要するに地球温暖化だけではなくて、先ほど美しい自然というお言葉もありましたように、そういう観点も大切にしながら。ああいう新しい試みとそのバランスを取っていくっていうのは難しいのは承知してるんですが、それでもそのバランスを取りながら両立させていく知恵を、民も含めて、官と民で。それこそ公民連携だと思っんですよね。そういう仕組みの中でぜひ築いていただきたいなという、そんなエールも込めてのお願いです。

司会ー ありがとうございます。それでは市長、お願いいたします。

市長ー いつもいろんなアイデアを出していただきまして、大変感謝しております。特に、額田地域の開発につきましてはお力添えをいただいておりますことを、重ねて御礼を申し上げます。

言うまでもなく、岡崎の市域の6割は中山間地になっておりまして、これは誰が市長になっても、これからの岡崎市の発展を考えたときに、この中山間地をいかに活かしていくかということが重要な課題となるということは明らかなことであるわけでありまして。私もそのことは重々承知しております。岡崎の人間っていうのは、どちらかという自分の地元のことですので意外と点数は辛いんですけども、額田の自然景観、また、自然的な資産というのは、私たちが思っている以上に価値のあるものでありまして、それはよそから岡崎にみえた方から指摘されて初めて気が付くことも多いわけでありまして、これからそうしたものを少し手を加えながら、しかし自然を活かした形でアピールできる施設を作りたいというふうに考えております。これは今からすぐ行うということではなくて、できれば民間の事業者の方にお力添えをいただきたいと思っております。岡崎市は水の供給元と消費地が一つの市域の中に入ってるという、本当にまれな地域になっておるわけですが、この水をしっかりと確保していくためには、山間地を整備するということが必要になるわけでありまして。しかし、整備をするっていっても大変お金がかかりますので、先ほど言いましたような公園の整備に間伐材を使えるような方向で、これから私たちは考えていきたいと思っております。そして山間地におきまして、われわれが軽井沢だったり蓼科に行くっていうのはちょっと簡単にはいかないわけでありまして、岡崎には幸い額田という、われわれは本当に気が付いてないけど、ちょっと手を入れればそれに近いぐらいの素晴らしい環境を持っているものがあるわけですので、そうしたものを公共と民間で協力しながら、キャンプがやりたい人はキャンプができるように、バンガローぐらいでいいという人はバンガローで、そうかといって高齢でいちいち食事作ったりするのは大変だという方は旅館とか簡易なホテルですね、そういった多様な対応ができるような施設整備っていうのをこれからやっていけたらどうかと、こんなふうに思っております。そして、その資金的

なものでありますけれども、もちろんわれわれも初動の段階では力を入れたいと思っておりますけれども、できれば岡崎市民に会員になっていただいて、そういう人たちには施設ができたときには割引で使っていただけるようにできたらどうかと思っております。片道1時間で行けるところにそういう山間リゾートができてくれば、岡崎市民にとっては個人の健康にもいいし、家族の友愛にもいいと思います。私たちが1週間とか時間を取って蓼科とか軽井沢にはなかなか行けませんけども、わずかに片道1時間で行けるところにそういう類似のものがあれば、皆さん毎年定期的に1週間とか休みを取っていただいて、ご家族で行っていただくと。それからもう一つ大事なことは、ペットが連れていける。そういうことができれば、岡崎の市民の生活ももっと豊かになるし、山間地の活用ということも進むんじゃないかというふうに思っております。

司会— ありがとうございます。それでは次にご質問等ございましたら、挙手のほうを。それではよろしく願いいたします。

団体員B— 私、環境まちづくり市民会議の会員でもありまして、私自身が市民会議の活動に参加させていただいて、バスに乗ることとか電車に乗ることっていうのを少し学びました。どうしてかという、やはり額田にはそういった公共の乗り物に乗る機会が、というよりも、まずは1歩出ようと思ってもそういった乗り物がございません。こちらの岡崎に来るといって、どうしても車になってしまいます。ですから、市民会議でこちらへ月1回お伺いするのも、残念ながら車で来ております。そういう意味では、CO2をばらまきながら参っております。

今、CO2というお話をさせてもらったんですが、額田はものすごく山がありまして、多分CO2削減という中の数値では、木に吸っていただけるだろうという予測のもとに数値は出てるかと思うんですが、これ自体、私、外から額田へ来た人間なんですけれども、外から見てるときの山はとてすてきでした。本当にいいと思いました。実際額田に来て、がっかりしました。真っ暗です。山の中が真っ暗です。これは、木にとっても成長ということには、いわゆるCO2を吸って酸素を吐いて生むってということには、ちょっと違ってるんじゃないかと。木ってというのは成長していくときに、そのままCO2と酸素のやりとりをするわけですけども、実は木というものは回転をさせないと。伐採をし、そして成長させる。その成長の過程の中で、一番多くCO2を吸っていただけてると。でも今の額田は、市長も時々おみえになってるので分かっていたらと思うんですが、今の山では、多分数値を出したそれとは恐らくだいぶ違うんじゃないかと。もちろん市民は頑張らなきゃいけないです、CO2を削減することに。でも、木はもっと削減してるんですね。でもそれは年々、今の額田の山では減ってます。それはやはり、市のほうもよく考えていただいて、きちんと数値もこういうふうに計算ができて、あの山をどういうふうにしていただけるのか。今まで、額田町と合併をされて、額田の山々をどうされますかと聞いても、白紙ですとずっと言ってきました。

10年たちました。そろそろいろんな施策をお示しいただけると。私たちボランティアで間伐もやっております。そういう者にとっては励みにもなりますし、ますますやらなきゃいけない。そして額田の山主さんも、多分指針を見せてくださることによって、「額田木の駅プロジェクト」も出来上がったことですので、いろんな頑張りもあろうかと思えます。そういう意味では指針がないとなかなか前に進めませんので、その辺、市長のお考えをお聞きしたいと思えます。お願いします。

環境部長― 具体的な施策のほうを、僭越ではございますが私から回答させてください。今おっしゃったように、額田の山はあんまり健康じゃありません。入ると暗いです。でも、われわれもそのまま放つといたわけではありません。本市の水道水源である額田地区の森林ってというのは、本当に間伐がほとんどされてなくて、水源の涵養機能が十分発揮されていないということは把握しております。そこでわれわれとしましても、水源涵養施策につきましては、今年の2月に岡崎市水環境推進協議会から出された答申を踏まえて、具体的には次の五つの取り組みを考えておりますので、ご披露させていただきたいと思っております。

まず一つ目は、強度間伐や広葉樹の植林等によって、不健全な森林を健康な森林に戻したいということ。二つ目は、森林制御の円滑な実施のために、地域の皆さんによる敷地境界および森林所有者の明確化。誰のものか分からなくなかなか手が出せませんので、これは必要だと思っております。三つ目は、身近な里山を水源涵養、景観だとか、生物多様性の場として整備をするというような、里山を保全していこうと。四つ目は、施策の効果を把握するために水環境影響調査によるモニタリングを。東京大学だとか豊田市の一部でやっておりますが、岡崎の山もやれたらなというふうに思っております。そして最後、五つ目といたしましては、森林の現状、今言われたような現状を全ての市民の方が知っておるわけではございません。このような現状を広く市民に周知する啓発事業を強化するというようなことを考えております。水を守るためには、やはりご意見いただいたように山を守らなければなりませんし、山主さんだけでなく、行政と市民みんなで守り、育む必要があるというふうに思っておりますので、これからも今まで以上にご理解、ご協力をいただければなというふうに思っております。以上です。

市長― 私、市長になる前の県会議員の時、山村議員連盟という自民党の議員連盟の副会長をやっております。市長にならんであのまま県会議員やとったら、多分今ごろ会長なんですよ。そういうことで、いろいろとそういうことをずっと勉強してきておまして、健康な山というのを維持していくためには常々の手入れが大切であって、枝打ち、下草刈り、それから間伐、そういうことをきちんとやって初めて、さっき言われた健康な山林っていうのを維持できるわけだと十分に知っております。それから、私の知り合いも額田にたくさんおまして、行くといつも山に行っちゃってないんですよ。何やってるかっていったら、自分で山の手入れをやっていただいているんです。ところが高齢化、後継ぎがない、そ

ういうことでなかなか進まないというのが現状なわけでありまして。それで、なんかいい方法ないかなと思つたら、前テレビ見てましたら、地域間交流っていうので、山の人とまちの人が交流しているところがありまして。豊田でもやってるんですかね、名古屋とやったりして。そういうようなものを、いいものはもちろん真似して都市間交流。まちで育った子どもたちっていうのは、山の生活って全然知らないわけですよ。目で見ては知ってますけど、実際にやったことがない。そういった子どもたちにとって、山の生活は大変新鮮ですから、山間地で草を刈ってもらったりして、バーベキューやってもらったり川遊びしてもらったりして、そういうものを味わっていただきながらお手伝いいただくというようなことを進めていくのが第一歩じゃないかなということを思っております。そういったことをやる中で、先ほど言いました山間リゾートの整備に何とか結び付けていきたいというふうに、私は考えております。

団体員Bー ありがとうございます。私ども、環境まちづくり市民会議とはちょっと離れまして、一般市民としてボランティアで間伐をしております。間伐をやる人間も若い者ではなく、年齢のいった者が入ってやっております。ここ数年やってるんですが、どこを間伐したんだろうというぐらい進んでおりません。そんな中、まちの人との交流をしてる中で賛同者を集めていくっていうことは、もちろん喫緊の課題というか、そういうふうにも思っております。ですので、今の市長のお考えっていうのは本当にありがたく思います。私、市長が前回市長選に立たれて討論会っていうのをやられたときに、実は意見を申し上げておまして、それが実は額田の水源について。この問題は本当に早急の問題であるという意味で、ご意見を出させていただきました。もちろんその当時から、市長は額田の山々というものをとても気にしていただけてるっていうのは把握しておりましたので、そういったご意見を出させていただいたわけなんですけれども、ますます額田のほうを見ていただいて、今、まち中の計画、いろいろなやり方を見せていただきました。私たちもそれを、じゃあ山の近辺でどうしたらいいかっていうのもボランティアで一生懸命、ない頭を駆使しながら、一部のところに手を入れる。どんどん過疎になっていくと山も寂れていくんですね。林道なんていうのは、今行っていただくと分かるとおりに、通らないところっていうのは道がなくなりつつある。そうすると間伐もできなくなってくるんです。実際、「額田木の駅プロジェクト」も直面してると思います。道路がないことにより、できないという。そういう面もいろいろございますので、木の駅プロジェクトのほうに環境部長はしょっちゅう来ていただけているということで、意見はきつと聞いているだろうと思うんですが、こういった問題を大きく考えていただき、そういった整備をすると、一般の方も中に入ってこれるという状態が作れていくと思います。今市長が言われた、市民との交流の場が山であつたりということはとても大事なことです。でも、その手前にそういった難問があるということ、申し訳ございません、よろしく願いいたします。

市長― 決して、えこひいきでまちの真ん中だけいろんなことをやっているわけじゃないんですよ。そもそもこれはどういうことかっていうと、この地域というのは言うまでもなく、戦前は繊維でしょう。それから戦後は自動車だとか工作機械造り。そういうことで、この今の豊かな三河エリアっていうのはあるわけですけども、それだけじゃなくて、いくら車造って頑張っても岡崎が豊田を凌駕することはないわけでありまして、そういう中で岡崎っていうものを改めて見たときに、岡崎には素晴らしい自然景観と、そして歴史的な文化資産がある。だからそれを整備して、それをもう一つの経済の柱にしてお金を入れると、また次のことができるわけですよ。そういうことで今やっておるわけでございますので、ご理解いただきたいと思います。

それから林道整備は、県会議員やっておるときにも一番多い陳情の一つでございますが、どこからやっていいかということもありましてね。東三河もありますし。ですから、岡崎だけを優先的っていうのはなかなかできなかった面もあるわけですけども、今は市長になりましたので、岡崎にしっかり目配りしていきたいと思っております。

司会― ありがとうございます。予定の時刻も過ぎておりますが、よろしいでしょうか。それでは、最後の質問とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

市長― どうしても一言言ってかんと今日眠れんという人は、待っておりますので後で個人的に。

団体員C― 今の話の件で、私も間伐のボランティアやるんですが、間伐って大事だ大事だって言うんですが、間伐に補助金出して間伐を進めるのはいいんですが、出口のほうをまずしっかり確保するのが一番大事かなと思うんですね。「額田木の駅プロジェクト」でそれをチップにするのもいいと思うんで、その辺の整備をしっかりしてもらおうと、おのずと間伐は進んでくるのかなと思います。ボランティアやってるメンバーは、岡崎市内に40～50名ぐらいはいるかなと思うんですが、額田の人っていないんですね、意外にね。大体、旧岡崎市民が多いんですよ。額田の人たちは自分でやってるのかもしれませんが、ボランティアでやっても限界ありますし、高齢化してるって事情があるんで、そういう意味では木の駅プロジェクトなんかはすごく勢いもありますし、いい事業だなと思いますね。そこをしっかりと補助金出すとか、量を増やせたらいいんですけど、そんなことを検討していただければいいかなと思ってます。

司会― ありがとうございます。よろしいでしょうか。それでは最後に、内田市長よりごあいさつを申し上げます。

市長― 今日は本当に遅くまでありがとうございました。今日も一応、それぞれの分野の責

任ある立場の者がおりまして、皆さまがたのご意見を直接聞かせていただいたというのが一番意義があることではないかと思えます。今日ここで話しましたことが即物事の解決につながるかどうかはともかくといたしまして、私たちもしっかりとそういったことを認識しておりますので、長い目で見ていただきたいと思えます。長い目といっても、あんまり遅くちゃまた叱られちゃいますけれども、これからも皆さまとともに、一つひとつの問題につきまして解決の努力をしていきたいと考えておりますので、どうぞこれからもよろしくお願ひ申し上げます。今日は本当に長い間、ありがとうございました。